

SOUNDMAN

バイノーラル ステレオ マイクロフォン ヘッドセット

制作／販売

SOUNDMAN

Soundman e.K.
Fangschleustenstr. 32
15569 Woltersdorf
Germany
Tel: +49 03362 5909 400

Mail: soundman@soundman.de

SOUNDMAN バイノーラルステレオマイクロフォンヘッドセット **OKM II** プロフェッショナルモデルおよび

A 3電源アダプター取扱説明書

OKM マイクロフォン色コード

OKM II Classic Solo

青

OKM II Classic A 3アダプター付属

青

II Studio Classic Solo

赤

OKM II Studio Classic A 3アダプター付

赤

OKM II Studio Rock A 3アダプ

ター付属

赤+

OKM バイノーラルステレオマイクロフォンヘッドセットは A3電源アダプター付属の無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロフォンです。

- 優れた空間特性を保持した録音が可能
- ライブコンサートの録音
- バウンダリーレイヤーマイクロフォンとしても使用可
- ラベリアマイクロフォンおよびクリップマイクロフォンとしても使用可
- ライン入力による録音

このバイノーラルステレオマイクロフォンヘッドセットは最近のポータブルレコーダー市場に配慮した新世代のマイクロフォンです。このマイクロフォンは幅広い用途に適用できます。

ヘッドセットマイクロフォンとしてのご使用方法

あなたの耳に装着されたマイクロフォンは、聞き取る音をそのまま主観的に録音することができます。再生時、特にヘッドフォンを使用した際には驚くような立体的な音響空間をもたらします。

このマイクロフォンは音の透過性の高いパッドを使用しているため、録音中も音楽を楽しんでいただくことが可能です。

色のついたパッドが外側を向くように装着します(青=左耳、赤=右耳)。

バウンダリーレイヤーマイクロフォンとしてのご使用方法

OKM バイノーラルステレオマイクロフォンヘッドセットは滑らかで平らなものの上(テーブル等)に置くことによってバウンダリーレイヤーマイクロフォンとしても使用できます。その際左右のマイクロフォンは干渉を避けるために、約 5~10cm 離れて設置する必要があります。これはアウトプットレベルが干渉により 6 dB 高くなるためです。

クリップマイクロフォンとしてのご使用方法

OKM バイノーラルステレオマイクロフォンヘッドセットをクリップマイクロフォンとしてご使用の際、擦れによる雑音の発生を防ぐようしっかりと固定して下さい。クリップマイクロフォンは会議やインタビュー、レッスン、講義などの録音に最適です。この方法で録音されたものはスピーカーでの再生をお勧めします。

Studio モデル

OKM 製品を製造するにあたり、当社ではコンピューターマッチングを用いて最高品質のマイクロフォンカプセルのペアを慎重に選択しています。さらに音質が求められるステレオ環境での用途のために、“Studio”モデルを OKM II Classic と OKM II Rock のそれぞれにご用意いたしました。これらのモデルは特に高い音質が必要とされる環境でその性能が発揮されるでしょう。

すべてのスタジオモデルは左右の偏差を示す検査証が付属します。その小さな偏差 (0.5dB 以下) は均整のとれた音響パターンを保証します。

OKM 技術仕様 (A3アダプター使用時)

OKM (A3アダプター使用時: 47kOhm ライン入力)

A3 アダプター

OKM コンデンサーマイクロフォンは直流電源が必要です。これは録音機器のマイクロフォンジャックか同梱の A3アダプターから供給されます。A3アダプターはライン入力を使用した場合に最も良い録音が得られます。A3アダプターの持つ自動レベル適応、高いマイクロフォン供給電圧、そしてその大変低いノイズレベルによって、従来のマイクロフォンを直接ジャックにつなぐ方法よりもより広いダイナミックレンジを得ることができます。小音量の音を録音する場合は、OKM を A3アダプターとあわせて使用することによりマイクロフォン入力からも録音することは可能ですが、マイクロフォン膜の表面積が小さいためシステムノイズが発生する可能性があります。これを防ぐには録音レベルが低すぎる場合に起こるプリアンプクリッピングを避けることが重要です。

使用上の注意

A3 アダプターは録音機器とマイクロフォンの間に接続して下さい。
使用後はマイクロフォンを A3アダプターから外すことを忘れないようにして下さい。マイクロフォンが A3アダプターに接続されている間はバッテリーが消耗されます。

スイッチ1 (シンボル - / -): 低周波数ロールオフ

講演や過度の低音を含む音楽を録音する場合は、スイッチの位置を / にして下さい。これにより 300 Hz 以下の周波数が減衰されます。通常、音楽を録音する際はスイッチを - の位置にして使用して下さい。

スイッチ2 (シンボル 0 / -20dB): 線状減衰

大音量の音楽を録音する際にクリッピングを回避したい場合は、スイッチの位置を -20 dB の位置にして使用して下さい。特に通常の音量の音楽を A3アダプターのライン入力で録音する場合は、スイッチを 0 の位置にすることをお勧めします。

バッテリーチェック

バッテリー残容量をチェックするにはテストボタンを押して下さい。このとき緑のLEDが光ります。このLEDの明るさによりバッテリー残容量を推定することができます。LEDが光らない場合はバッテリーを交換して下さい。

6. 延長ケーブル

マイクロフォンを録音機器から離れたところに設置する場合は、ケーブルの容量が1000 pF以下のものを使用して下さい。A3アダプターの出力ケーブルを延長することはお勧めしません。

A3アダプター技術仕様

入力インピーダンス	< 1kOhm
入力インピーダンス	> 50 kOhm
周波数特性	20Hz to 50kHz(+0-3dB)
周波数特性(フィルター使用時)	300Hz to 50kHz(+0-3dB)
最大出力電圧	1,5V RMS
バッテリー	6V(4LR44,PX 28A or equiv.)
バッテリー持続時間	100 時間 (OKM II)

OKM II Classic 及び A3 アダプターをポータブルレコーダーとともに使用する場合の推奨設定

SPL [dB]	SP [Pa]	推定音量	入力	減衰器	A3アダプター 減衰器
100...120	2...20	大	ライン	-	-20 dB
82..102	0.25...2.5	中	ライン	-20 dB	0 dB
63...83	0.03...0.3	小	マイク	0 dB	0 dB
43...63	3m...30m	極小	マイク		0 dB

- 音量を推定し機材の設定をして下さい

- レベルメーターを見ながら録音レベルを設定して下さい。

- 録音レベル設定が3から10の間であれば、録音を開始して下さい。

録音レベル設定10においてレベルを低く抑えたい場合は、ライン入力に設定し再度録音を行って下さい。このときノイズを最小限に抑えるため、音源に近づいて録音して下さい。

録音レベル設定が3よりも低い場合は、推定音量を低く設定したかクリッピングによるディストーションが起こったことを意味します。

大音量環境(PA等)で使用する場合は、OKM II Rockをお勧めします。このモデルを使うことにより許容音量が上記からさらに20dB増します。これはOKM Iを使用の場合6dBです。

マイクが耳に合わない場合に備えて、ブラケットが付属しています。